

# 千葉県社保協通信

2023年度 No.4 2023年 9月 25日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉センタービル3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール [syaho2022@themis.ocn.ne.jp](mailto:syaho2022@themis.ocn.ne.jp)

## コロナ禍を教訓に いのち・くらしをもる 県の役割発揮を求める

9月5日(火)午前、32回目となる「社会保障の充実を求める自治体要請キャラバン」の一環として、項目を絞り込んで県の担当課～医療整備課、保険指導課、高齢者福祉課等の担当課と2時間近くにわたり懇談しました。

### 地域の声を聞き 医師・看護師確保 病床拡充こそ

保険医協会からは「コロナ5類移行後も変わらず業務量の増大、患者の受診控えの影響など、医療機関の経営状況は厳しい。補助金等減収補填策、県民への必要な検査、受診勧奨を行ってほしい」ことなどを要望。また「千葉県地域医療構想」について「開業医は重篤な患者を入院施設へ送るなど地域全体の医療資源が安定していることにより安心して診療に従事することができる。病床削減や人手不足は大きな問題」と指摘。

さらに医労連からは、「地域住民の実態、地域の医療・介護・福祉関係機関の意見・要望を尊重し、必要な病院・病床機能の整備・拡充を図ることこそ必要」と訴え。合わせて県内全ての医療・介護、福祉労働者の賃金の底上げに充てることを目的とした持続的給付金を県として支給するとともに国にも要請するよう求めました。

民医連からは、不足している看護師確保のため、「既存の養成校の定員枠の拡大」と「県立の養成学校の新設」を要望。あわせて「看護学生が安心して



県の制度は現在第三子以降です。完全無償化を求める署名です。



県保険医協会、県民医連、千商連、県医労連、年金者組合県本部、新婦人県本部の各団体と事務局の11人が出席。みわ由美県会議員(共産党)が同席しました。

学び、就業するため経済的な支援で学業に専念できる環境が必要。他県に比較して低い「保健師等修学資金貸付額」の大幅な増額をと訴えました。

### 介護従事者の処遇改善こそ急務

民医連の介護現場からは、ケアマネジャーはじめ介護従事者が不足する深刻な実態が報告されました。「県として実態調査と介護従事者不足解消のために処遇改善のため独自の支援策を」と要請しました。

### 国保は社会保障制度 すべての人の受療権守れ！ 一國保広域化に向け十分な説明と意見聴取を

年金者組合からは、年金だけでは足りず働かざるを得ない高齢者の実態があること。県政に関する世論調査でも「高齢者の福祉の充実」は12年連続で第2位。「後期高齢者の窓口負担原則2割化は中止するよう国に要請を」と訴え。千商連からは、県社保協が今春実施した「国保・後期高齢者医療」に係るアンケート結果を紹介。「県国民健康保険運営方針」改定に向けて、高すぎる保険料に苦しむ県民の声や「市町村」「医療機関」の対応や要望をどう集約するのか、「統一保険料」について加入者や市町村に十分に説明し、意見聴取をするよう求めました。

### 学校給食費の無償化を求めます！！

憲法26条では「義務教育はこれを無償とする」とあります。この間取り組んできた熊谷県知事宛「公立小中学校などの給食の完全無償化の実施を求める要請」署名5034筆。「新日本婦人の会千葉県本部」の取り組んだ独自の署名3056筆と合わせ、県に提出しました。※10月に第2次の提出を予定しています。